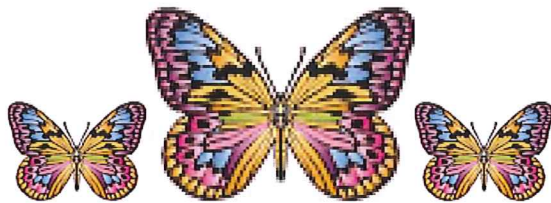


カリキュラムガイダンス

授業科目概要



令和6年度

3年生（13回生）

あさくら看護学校

令和6年度 教職員氏名一覧

名称	氏名	担当領域
校 長	田 邊 庸 一	
副 校 長	瓜 生 知佳子	
学校担当理事	草 場 信 秀	
健康管理医	安 永 祐三	
教務主任	堀 内 幸 代	基礎看護学
実習調整者（1・2年生）	伊 藤 哉 女	成人看護学
実習調整者（3年生）	池 田 陽 子	看護の実践と統合
実習調整補	馬 場 若 美	小児看護学
専 任 教 員／1年生担任	林 利 奈	老年看護学
専 任 教 員／1年生担任	江 田 万理子	基礎看護学
専 任 教 員／1年生担任	熊 添 智 春	基礎看護学
専 任 教 員／2年生担任	佐々木 京子	地域・在宅看護論
専 任 教 員／2年生副担任	朝 倉 美弥香	母性看護学
専 任 教 員／3年生担任	皆 元 謙 治	精神看護学
専 任 教 員／3年生副担任	中 野 弘 貴	成人看護学
実 習 指 導 教 員	中 原 彩 実	教員相談担当
事 務 長	吉 田 真 仁	
事 務	鳥 越 恵 理	
事 務	古 谷 美菜子	
事 務	養 父 ミキ	
図 書 司 書	本 田 清 子	

目 次

令和 6 年度 学年歴	．．． 1
【基礎分野】	．．．．． 2 ～ 4
文化人類学	．．． 2
看護と音楽	．．． 3
中国語	．．． 4
【専門基礎分野】	．．．．． 5 ～ 8
看護関係法規	．．． 5 ～ 6
公衆衛生学	．．． 7
健康運動論	．．． 8
【専門分野】	．．．．． 8 ～ 38
看護学概論Ⅱ	．．． 9
地域・在宅看護方法論Ⅱ	．．． 10
専門職連携とチーム医療	．．． 11
看護管理（看護マネジメント・国際看護）	．．． 12～13
災害看護	．．． 14～15
看護技術統合（臨床の場面に即した日常生活援助技術）	．．． 16～17
看護技術統合 多重課題	．．． 18～19
地域・在宅看護論実習Ⅱ	．．． 20～21
成人看護学実習Ⅰ	．．． 22～23
成人看護学実習Ⅱ	．．． 24～25
老年看護学実習Ⅰ	．．． 26～28
老年看護学実習Ⅱ	．．． 29～30
精神看護学実習	．．． 31～33
看護の統合と実践実習	．．． 34～38

令和6年度 学年歴

行 事	学年	日 程
入学式	1	令和6年4月4日（木）
入学後教育	1	令和6年4月5日（金） 4月8日（月） 4月9日（火）
戴帽式	1	令和6年10月24日（木）
卒業式	全	令和7年3月6日（木）
オリエンテーション	全	実習オリエンテーション 長期休暇前後オリエンテーション
解剖見学	2	令和6年5月14日（火）
学校祭 （文化祭） （運動会）	全	令和6年6月8日（土） 令和7年2月20日（木）
宿泊研修	1	令和6年11月8日（金）～11月9日（土）
就職フォーラム	1・2	令和6年12月
健康診断	全	1年生 令和6年4月18日（木） 2年生 令和6年4月17日（水） 3年生 令和6年4月25日（木）
特別講義 （聖マリア病院周産期見学・講義）	2	令和6年12月11日（水）
防災訓練	全	令和6年6月14日（金）
国家試験対策	全	国家試験ガイダンス
国家試験	3	令和7年2月16日（日）予定
夏季休業	全	令和6年8月5日（月）～8月30日（金）
冬季休業	全	令和6年12月23日（月）～令和7年1月3日（金）
春季休業	全	令和7年3月18日（火）～3月31日（月）

授業科目	文化人類学	講師名	葉山 アツコ		
	開講年次：3年次前期	単位	時間数		
		1	30時間（試験含）		
授業科目 目標	1.文化によって異なる家族や宗教などのさまざまなあり方を学習し、異文化の存在や新しい視点を理解する。 2.人間の身体や死や誕生といった状況の意味が大きく変化する現代にあって、身体観・病気観・死生観を養う第一歩とする。				
ねらい	患者の理解のためには、その背景にある文化を知ることが不可欠である。文化によって異なる家族や宗教などのさまざまなあり方を学習することで、学生が異文化の存在を感じ、文化と価値観の多様性を考える新しい視点の獲得につながる。また、医療と切り離せない「身体観」「病気観」「死生観」を養う第一歩として学習する。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1.人間と文化	①文化共生社会—何故異文化理解が必要か			4	講義
2.人生と時間	①通過儀礼とは何か ②通過儀礼をめぐる議論（1）女子割礼 ③通過儀礼をめぐる議論（2）女子割礼			4	
3.異文化理解	①異文化理解は難しい（1）日本のイルカ漁、欧米の描き方 ②文化理解は難しい（2）日本のイルカ漁、地元の反応			4	
4.人と人とのつながり	②生殖、生、ジェンダー ③性をめぐる問題（1） ④性をめぐる問題（2）			4	
5.身体・病気・治療	⑤文化と病気観（1）—病気概念 ⑥文化と病気観・文気観（2）—伝統的医療と現代医療			4	
6.人間と死	⑦死の判定、死の成立 ⑧死者儀礼—「チベット死者の書」 ⑨現代と死			4 4	
7.試験	⑩試験			2	
評価方法及び 評価基準	筆記試験 100点				
テキスト	講師紹介				
参考文献					

授業科目	看護と音楽	講師名	末次 輝子		専門領域	
					中学校教員一級免許・高等学校教員二級免許（音楽） （病院にて音楽療法士として勤務）	
					実務経験年数	
開講年次：3 年次後期			単位	時間数		
			1	15 時間（試験含）	18 年	
授業科目 目標	1、癒しとしての音楽の意義を理解する。 2、対象の癒しとして、具体的な音楽の活用方法を知る。 3、自らも音楽を聴く、歌うことにより癒しを体験する。					
ねらい	音楽が人間に与える影響を学び、癒しとしての音楽の意義を理解し、具体的な音楽の活用方法を知る。自らも音楽を聴く、歌うことにより経験的に癒しを体験する					
授業計画						
単元名		教育内容			時間 方法	
1 音楽が人間に与える影響		①感情（情緒）の表現 ②コミュニケーション ③身体反応			2	講義の時間ごとに、音楽を実際に感じる
2 音楽療法とは		①音楽の起源 ②音楽療法の歴史			2	
3 高齢者と音楽療法		①高齢者に対する心理社会的アプローチ ②音楽療法の効果 ③音楽療法の実際			2	
4 発達障害・精神障害と音楽療法		①音楽療法における認知行動療法的アプローチ ②統合失調症患者に対する音楽療法の効果 ③障害児に対する音楽療法的アプローチ ④知的障害児に対する音楽療法			2	
5 医療現場での音楽療法		①医療現場での音楽療法の効果 ②緩和ケアでの音楽療法 ③ホスピス・緩和ケアでの音楽療法の効果			4	
6 ストレスと音楽		①音楽療法におけるストレスマネジメント			2	
7 歌を歌う・歌を聴く試験		①身体感覚として音楽を感じてみよう			1	
評価方法及び 評価基準		筆記試験 ・ レポート課題				
テキスト		講師持参				
参考文献		講義内で紹介				

基礎分野

令和6年度(2024年)

授業科目	中国語	講師名	管 虹		
	開講年次：3 年次前期	単位	時間数		
		1	15 時間（試験含）		
授業科目 目標	1. 私達の住むアジアの中で特に関係の深い中国の日常会話や歴史物語、漢詩を学ぶ中で異文化理解を深める。				
ねらい	私達の住むアジアの中で特に関係の深い中国の語学と文化について理解を深めることと基礎的な医療的コミュニケーションの習得。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
第1課	自己紹介			2	講義 演習
第2課	どうなさいましたか			2	
第3課	この薬はどう飲みますか			2	
第4課	病室はどこですか			2	
第5課	具合はいかがですか			2	
第6課	心配いりません			2	
第7課	退院おめでとうございます			2	
試験	試験			1	
評価方法及び 評価基準	試験 100 点				
テキスト	協同学習で学ぶ「医療系中国語会話」李偉 管虹 白帝社				
参考文献	なし				

授業科目	看護関係法規	講師名	川崎 和治	
	開講年次：3 年次前期	単位	時間数	
		1	15 時間（試験含む）	
授業科目 目標	1 看護職に必要な法令を学び、看護業務及びその法的責任について理解する。			
ねらい	我々が看護業務を行うということは、法に則り業務を遂行することであり、法によって守られていることになる。また、看護師としては、法に従って業務を行うことは看護師としての責任上守らなければならないことである。看護師にとって法律の理解は必至であり、法の下での看護業務の遂行の重要性と看護業務と法の実際の看護現場に即して理解してほしい。			
授業計画				
単元名	教育内容		時間	方法
1. 保健医療福祉と法の関わりかた	看護に関わる法について 法の種類 チーム医療と法の構造 ・医療スタッフに関する法の枠組み ・医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み ・医療提供の理念と医療安全（医療法） 法制度を取り巻く考えかた ・インフォームドコンセント		2	講義
2. 看護をめぐる法	看護師 ・保健師助産師看護師法 ・看護師等の人材確保に関する法律 その他 ・医師法 ・その他の医療従事者に関する法		2	
3. 支えるシステムに関する法律	社会保健制度 ・健康保険法 ・国民健康保険法 他 ・高齢者医療確保法 ・介護保険法 ・生活保護法 ・障害者基本法、障害者総合支援法		4	
4. 政策に関わる基本法等の関連法令	医療政策に関する法律 ・社会保障制度改革推進法 ・社会保障改革プログラム法 ・地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律 福祉政策に関する法律 ・自殺対策基本法 ・こども基本法/子ども・子育て支援法 災害政策に関する法律 ・災害対策基本法 人口政策に関する法律 ・高齢社会対策基本法 ・少子化社会対策基本法 ・次世代育成支援対策推進法 労働政策に関する法律 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 ・男女雇用機会均等法 ・育児・介護休業法 女性政策に関する法律 ・男女共同参画社会基本法		6	

5. 試験	筆記試験	1	
評価方法及び 評価基準	筆記試験		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度		
参考文献	日々の新聞で医療に関する記事があるので、出来るだけ読むようにしてください。		

授業科目	公衆衛生学		講師名	江口 泰正
	開講年次：3 年次後期		単位	時間数
			1	15 時間
授業科目 目標	1. 様々な対象への疾病予防策や、健康保持・増進の方法、さらには社会環境の整備について、看護の視点から提案できる。 2. 疾病や健康に関する様々な情報を自ら入手し、それを批判的に評価し、根拠に基づく情報を選別して伝えることができる。			
ねらい	現代の日本は、生活習慣病や精神的疾患の増加、進行する少子高齢化、気候変動に伴う熱中症、新たな感染症の拡散など、多様な健康リスクに直面している。本科目では、このような課題に関するデータを自ら入手し、批判的に評価する方法について学習する。そして、学んだ知識を基に、公衆衛生に関わる政策や健康保持・増進プログラム、医療や福祉サービスへ積極的に貢献できる意識を培う。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. 公衆衛生の基本概念と歴史	① 公衆衛生の定義とその重要性 ② 公衆衛生の歴史的背景と発展 ③ ヘルスプロモーションとの関連	2	講義	
2. 公衆衛生システムと管理	① 日本における健康課題 ② 公衆衛生システムの現状 ③ 公衆衛生の担い手 (地方自治体、保健所、公衆衛生専門職 他)	2		
3. 公衆衛生活動のプロセス	① 保健師の活動内容 ② 健康診査・検診の意義 ③ 家庭訪問、健康相談の意義 ④ 健康教育の対象と意義	2		
4. 公衆衛生のための統計と疫学	① 基本的な統計と疫学の概念 ② 調査・研究のデザイン ③ データの評価と解釈	2		
5. ライフステージ別各論	① 親子保健 ② 成人保健 ③ 高齢者保健	2		
6. 領域別各論	① 学校保健 ② 産業保健 ③ 環境保健 ④ 国際保健	2		
7. 健康日本21 (第三次)	① 身体活動・運動 ② 栄養・食生活 ③ 休養・睡眠 ④ 飲酒・喫煙 ⑤ 歯・口腔 他	2		
6. 終講試験	筆記試験			
評価方法及び 評価基準	筆記試験 (80%程度) に授業評価点等 (20%程度) を加味して得点化し (100 点満点)、60 点以上を合格とする			
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 公衆衛生			
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

授業科目	健康運動論	講師名	江口 泰正	
	開講年次：3 年次後期	単位	時間数	
		1	30 時間（試験含）	
授業科目 目標	1.身体活動・運動による疾病の予防・改善、および健康保持増進の効果や身体活動不足によるリスクについて理解する。 2.運動処方の基礎理論を理解し、看護実践の場面で役立つ適切な運動プログラムの立案ができる。			
ねらい	身体活動・運動の継続は、総死亡率、がん、循環器疾患やその誘因ともなるメタボリックシンドロームに対して、またメンタルヘルスやフレイルなどに対しても予防・改善効果があるという強いエビデンスが確立されている。そのため近年、医療、保健、福祉等の現場で身体活動・運動を活用する場面が増えてきている。看護の一環として、健康障害時の援助のみならず健康の保持増進も視野に入れることは重要である。本科目では、身体活動・運動による疾病の予防・改善、および健康保持増進の理論と方法について学習する。さらに、各健康レベルに応じた援助法の理解とともに、運動・スポーツの特性に触れ、さらに、各健康レベルに応じた援助法の理解とともに、運動・スポーツの特性に触れ、生涯にわたって身体活動・運動に親しむことができる意識を培う。			
授業計画				
単元名	教育内容	時間	方法	
1. 健康運動の根拠	①健康の定義とヘルスプロモーションについて ②身体活動・運動が実施されている多様な場面について ③身体活動・運動がもたらす利益について ④健康保持増進と身体活動・運動に関する施策・指針について	8	演習、講義	
2. 運動処方の考え方	①運動実施による生理的変化とリスクについて ②利益・リスクのバランスと運動処方について	4	講義	
3. 目的別運動の理論	①メタボ改善に活かす運動について ②リフレッシュに活かす運動について ③介護予防、転倒予防に活かす運動について	6	講義	
4. 目的別運動の実践	①身体活動・運動の実施によるエネルギー消費量の推定 ②リフレッシュに活かす運動の実践 ③介護予防・転倒予防に活かす運動の実践	6	演習、実技	
5. 運動継続への戦略	①行動科学を用いた身体活動・運動の継続法 ②健康増進プログラムの企画、立案	4	講義、演習	
6. まとめ、試験	まとめと試験	2		
評価方法及び 評価基準	筆記試験（80%程度）に授業評価点等（20%程度）を加味して得点化し（100 点満点）、60 点以上を合格とする			
テキスト	江口泰正、中田由夫（編著） 職場における身体活動・運動指導の進め方、大修館書店、2018			
参考文献	「健康づくりのための身体活動基準 2013」（厚生労働省ホームページ、下記アドレスより入手可能、もしくは「身体活動基準 2013」で検索） http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xple-att/2r9852000002xpqt.pdf			

授業科目	看護学概論Ⅱ	講師名	瓜生 知佳子		専門領域
					看護師（病院にて看護師して勤務）
					実務経験年数
開講年次：3 年次後期	単位	時間数	実務経験年数		
	1	30 時間	7 年		
授業科目 目標	1. ケーススタディを通して、看護の学びの成果をまとめる 2. 臨地実習で感じた倫理的課題を見出し、倫理的課題の対応方法を学ぶ 3. プレゼンテーションを経験することで、プレゼンテーションの意義がわかる 4. 求められる看護の姿とのこれからの看護の展望を考え、自らの看護の方向性を考える				
ねらい	これまで学習してきた看護学の学びの成果を明らかにし、これから求められる看護の展望とを考え、自らの看護の方向性を考えるきっかけとする。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
看護研究	1. ケーススタディとは 2. ケーススタディをとおして学ぶこと何か ①実習での看護実践を振り返り、看護とはなにかを考える ②対象の反応（言動）やケアの意味づけをすることで、学んだことを抽象化できる			2	講義
ケーススタディの実際	1. 看護学実習でうけもった事例から 1 事例選ぶ 2. 看護の実際を振り返り、気になった場面（現象）や疑問に思った場面（現象）を看護学として意味を捉えなおす 3. 現象の意味を理論的に解釈することで、具体レベルの現象を表象レベルで理解できる 4. 研究のプロセスに沿って展開する 5. 論文としてまとめることができる			12	講義 個人ワーク
プレゼンテーション	1. プレゼンテーションの目的を理解できる 2. 口頭発表 3. 意見交換 4. 評価ができる・評価を受けることができる			4	個人発表
倫理課題の対応の方法	1. 臨地実習において、感じた倫理的課題を見出す 2. 倫理課題の対応についてカンファレンスを行い検討する 3. 看護倫理の授業で学習したツールを活用する 4. 学びをまとめることができる			8	講義 事例検討 グループワーク
プレゼンテーション	1. ポスターセッション 2. 意見交換 3. 評価できる・評価を受けることができる			4	グループ発表
評価方法および 評価基準	レポート点：合計 100 点 ① ケーススタディ（40 点） ②倫理的課題へのアプローチの方法（40 点） ② 自己の看護観（20 点）				
テキスト	講師作成 授業で紹介する				
参考文献	授業で紹介する				

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅱ	講師名	佐々木 京子	専門領域：看護師・社会福祉士 (病院にて看護師して勤務)	
		開講年次： 3 年次	単位	実務経験年数 26 年	
			1	時間数 1 5	
ねらい	1. 事例をもとに、地域で生活しながら療養を行うことを支えるための制度や社会資源、福祉サービスの活用と看護師としての支援方法を考える 2. 在宅における倫理的課題を明らかにし、倫理的課題の対応方法を学ぶ				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	方法
1) まとめ 2)	1・ケーススタディ 1) 今まで体験した事例を選択しその事例をまとめる ①在宅で療養しながら生活している人と家族の対象を理解する ②療養者や家族が望む生活の実現のために行われている支援を明らかにする ②地域で生活しながら療養を支えるための制度や社会資源、福祉サービスの活用と看護師としての支援方法をまとめる 2.在宅における倫理的課題を明らかにし、倫理的課題の対応方法を学ぶ 「家族・医療者・療養者で異なるサービスを利用」			1 0 4	講義 演習 グループワーク
評価・まとめ				1	
＜備考＞					
評価方法及び評価基準	筆記試験 50点 ルーブリック評価 40点 グループ点10点				
テキスト	長谷川素美：在宅看護論①地域療養を支えるケア				
参考文献	長谷川素美：在宅看護概論②在宅医療を支える技術 長谷川素美：②医療安全 河原加代子：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				

授業科目	専門職連携とチーム医療	講師名	伊藤 哉女		専門領域
					看護師（病院にて看護師して勤務）
	開講年次： 3 年次後期		単位	時間数	実務経験年数
			1	15 時間	17 年
授業科目 目標	1、チーム医療の必要性、目的、意義について経験を通じて理解する。 2、専門職連携と協働について理解し、チーム医療の実際を学ぶ。 3、事例を通して、他職種の意見を聞き看護の視点と異なる意見を聞き支援の方向性を明らかにする。				
ねらい	近年、医療の高度化、複雑化に伴い質の高い医療を提供するためにチームでのかかわりが重要性を増している。既習の学びとしてチーム医療とは何か、専門職と連携するとは、チーム医療の中での看護師の役割について学んでほしい。また、チームで協働するために必要な考え方と行動がとれるための基礎的能力と技術を身につけてほしい。				
授業計画					
単元名	教育内容			時間	備考
チーム医療の基本的考え方	1) チーム医療の目的・4 つの要素の確認 （1）チーム医療の目的 （2）4 つの要素 「専門性志向」「患者志向」「職種構成志向」「協働志向」			2	講義
他職種とのコミュニケーション	1) 連携・協働の意味 （1）連携とは （2）協働とは 2) 他職種とのコミュニケーション （1）ロールプレイ			2	講義 ロールプレイング
事例を検討する	1) 事例の理解をする 1) 事例を共有する・・・病院の専門職と話し合いをする （1） 事例の捉え方の視点の相違 （2） 目的の共有 （3） 支援の必要性の検討 （4） 発表			2 4 2 2 1	グループワーク 他職種と共に話し合い 発表
まとめ	試験			1	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護学概論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護管理				
評価方法及び 評価基準	筆記試験 ・レポート 100 点 レポート「専門職と連携することの意義と看護師の役割」－他職種と事例患者を検討することで学んだこと＝				
参考文献	医学書院 統合分野 看護管理 日本看護出版会 チーム医療とは何か 細田満和子 他は授業で紹介・提示します				

統合分野

令和 6 年(2024 年)

授業科目	看護管理 (看護マネジメント・ 国際看護)	講師名	牛島けい子		専門領域看護師 (病院にて看護師として勤務)	
					実務経験年数 24 年	
			馬場先生		専門領域：看護師（病院にて看護師として勤務）	
					実務経験年数 年	
		開講年次：3 年次・全期	単位 1	時間数 30(試験含)		
授業科目目標	1. 既習の知識・技術・態度を統合し望ましい実践マネジメント基礎能力を身につける 2. チーム医療及び他職種との協力の中で看護師としてメンバーシップ及びリーダーシップを理解する 3. 看護の広がりとして、国際社会において看護師として諸外国との協力を考え、異文化を理解し文化を考慮した看護を学ぶ。看護師として、よりよい社会づくりに貢献することの意味を考える					
ねらい	看護マネジメントとは、「最良の看護を患者や家族に提供するために、チーム組織・システムを動かし看護の成果を出すこと」と言われている。病棟実習などで看護管理者（病棟師長・主任）の存在は知っていても、学生にとっては縁遠い存在かもしれない。しかし、看護学生も看護組織の一員であるため、看護学生として新人看護師として何が求められているのか、どんな行動が必要なのかを学んで欲しい。 また、国際看護については、身近な問題としてコロナウィルス感染症など、グローバル化による全世界レベルの健康問題があることを身近に考える機会としたい。 国際協力に関する政府機関や非政府機関、国連機関など世界における国際協力の仕組みを知り、看護師として国際社会に貢献できることは何かを考えてもらいたい。 国内においても外国人登録者数は増加しており、日本に住んでいても異なる文化を持つ人と接することは稀ではない。異なる文化を持った方が看護の対象となった場合の障壁と対処について自分の事として考える機会として欲しい。					
単元	教育内容	学習目標と内容			時間	方法
(牛島先生) 1. 看護の組織とマネジメント	1) 看護管理学とは 2) マネジメントが必要とされる場	1. 看護管理学に含まれる要素についての概略がわかる 2. マネジメントプロセスとマネジメントサイクルの概要について理解できる。(看護管理過程と看護過程サイクルの考え方) 3. 看護のマネジメントが必要とされる場について理解できる 4. 看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められることについて考察する			6	講義 レポート
2. 看護管理のスキル	1) 職場の人間関係を構築する技術	1. モチベーションマネジメントとは何か 2. コンフリクトマネジメントとは何か 3. ストレスマネジメントとは何か 4. アサーティブコミュニケーションとは何か			4	講義
3. 看護職と生涯教育	1) キャリアマネジメントについて理解する	1. 看護教育の体形について知る 2. 継続学習の方法について理解できる 3. 認定看護師・専門看護師の活動目的・活動内容、組織における実際の活動を知る 4. 特定行為について調べることができる 5. 専門職とは何かを考える			2	
4. 看護ケアのマネジメント	1) 看護ケアのマネジメントについて理解する	1. 組織における安全管理を理解できる 2. 看護師同士の連携について理解できる 3. 他職種の法制度上の役割が言える			4	

	2) 看護マネジメントと安全管理について理解する 3) チーム医療について理解する	4. 他職種と連携する上で必要なことが理解できる		
(馬場先生) 5. 国際看護とは・グローバルナーシング	1) 世界の健康問題の現状について理解する 2) グローバルヘルスについて理解する	1. 世界の人口転換・環境問題とSDGsの関係が分かる 2. SDGsの目標と日本における取組が理解できる 3. 三大感染症と発症地域、防疫体制が分かる	2	講義
6. 国際看護学	1) 国際看護学について理解する	1. 国際看護学の対象が分かる 2. 国際協力に関する組織の特徴を学ぶ 3. 国際救護の具体例を学ぶ 4. 国際人権法・国際人道法を理解できる	4	講義
7. 国際協力の仕組み	1) 国際協力の仕組みについて理解する 2) 我が国の国際救護機関・団体について理解する	1. 国連機関の主要機関・専門機関が理解できる 2. 以下の国連機関の目的・役割について理解できる ①WHO（世界保健機構） ②UNICEF ③UNHCR ④WFP 1. 政府開発援助について 2. JICAの目的と活動について	4	講義
8. 文化を考慮した看護	1) 異文化間トレンスについて理解する 試験	1. 文化を考慮した看護実践を述べる 2. 外国人が抱えやすい3つの壁と対処について理解できる 3. 異文化の寛容性について自らの意見を述べる	2 2	講義
テキスト	メディカ出版 看護管理 看護学概論			
評価方法及び基準	筆記試験、レポート点、演習点を含めて評価します 試験時間は60分です *筆記試験は受験する事、レポートは提出を最低条件とします。 課題、レポートの未提出の場合は、看護管理の点数はありません。単位認定はしません。			

統合分野

令和 6 年 (2024 年)

授業科目	災害看護	講師名	渡邊 隆明		専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)	
	開講年次 : 3 年次・全期		単位	時間数		
			1	15 (試験含)		
授業科目 目標	1. 災害サイクル各期の看護の基礎知識を理解するとともに、各領域の対象が被災した場合の看護について学ぶ基本とする 2. 被災して避難した場合の避難所での看護の必要性を学ぶ 3. 災害現場でDMATとして実践を行っている看護師に災害時での看護の実際を学ぶ					
ねらい	毎年のように発生する豪雨や東日本大震災に代表される激甚災害は時と場所を選ばず発生する。災害がひとたび発生すれば、人命が脅かされ、人々の生活に多大なダメージを引き起こす。 被害を最小限とし、対象の健康を守るために看護師として何が必要なのかを学んで欲しい。 災害は、いつ・どこで起こるか分からないため、切迫感を感じにくい。そこで、避難所を体験することで、被災した場合の避難所における避難所管理や、災害弱者の支援を含めた避難所支援の在り方を考えて欲しい。 また、実際DMATで活動している看護師からの経験を聞くことで、看護職の専門性を活かした社会貢献および地域への働きかけの必要性を学んで欲しい。					
単元		教育内容			時間	方法
災害概論		①災害の定義と分類 ②災害サイクル ③災害関連の社会制度 ④災害における疾病構造 ⑤災害における社会心理 ⑥災害マネジメント ⑦災害トリアージ			4	講義 レポート
災害看護概論		①災害看護とは ②災害看護の歴史 ③災害看護における倫理的課題				講義 レポート
災害看護の実際 (避難所体験)		①避難所の定義と分類 ②避難所における課題 ③災害サイクル急性期における避難所特徴 ④災害サイクル中長期における避難所の特徴 ⑤避難所における災害弱者 ⑥疾患や障害を持った人が避難所で暮らすことの問題 ⑦避難所における看護師の役割			6	演習
(DMAT活動) 渡邊先生		①DMATの定義・活動目的 ②DMATの活動期間			4	

試験	③DMA Tの構成要因とその役割 ④D P A TとDMA Tの違い ⑤トリアージ ⑥DMA Tとしての平時の準備 筆記試験	1	
備考	非日常の出来事である災害現場を具体的にイメージしながら、刻々と変化する状況の中で、看護師がどのように活動していくのが理解できるように、知識の提供のみでなく演習を取り入れながら講義を展開していきたい。限られた講義時間の中で災害看護を理解するために事前学習課題を提示する。		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学－看護の統合と実践③－（医学書院）		
参考文献	1) 黒田裕子 災害看護（人間の生命と生活を守る） MC メディカ出版（2009） 2) 黒田裕子 災害看護 MC メディカ出版（2011） 3) 志自岐康子 看護学概論 MC メディカ出版（2014）		
評価方法及び基準	筆記試験、レポート点、演習点を含めて評価をする。 試験時間は 60 分である。各講義詳細は時間内に説明をする。 ＊筆記試験は受験する事、レポートは提出を最低条件とします。 課題、レポートの未提出の場合は、看護管理の点数はありません。単位認定しません。		

授業科目	看護技術統合 臨床の場面に即した日常生活 援助技術	講師名	池田 陽子		専門領域 : 看護師 (病院にて看護師として勤務)	
					実務経験 年数 9 年	
	開講年次：3 年次	単位		時間数		
		2		60		
授業科目 目標	1. 臨床の場面に即した問題に対し、看護実践を行うまでの判断の思考過程を体験的に学ぶ 2. 看護場面を再現し、その時・その場で何を行ったのか、なぜ行ったのかを既習の臨床判断プロセスを用いて述べる事が出来る 3. ある看護場面で実施する看護が計画通り実施できるか、修正・追加が必要かを判断しその理由を述べる事が出来る 4. グループ学習を通して協同学習を行い、学生が主体的に学習を進める事が出来る 5. 4 で行った自己の行為を振り返り、成果と課題を明確にできる					
ねらい	「臨床の場面に即した日常生活援助技術」では、造血器腫瘍患者と腎不全患者の事例を元に学習を行う。それぞれの事例の症状や徴候、検査結果、治療の作用機序と副作用はなぜ生じているのかを既習の知識（解剖生理・病態）を元に理解する。 今回の学びの特徴として、学生の主体的学習能力を育成したい。臨床で看護を行う際、事前に知っておくべきこと・必要な手技の習得は、自ら導き出し、事前に準備して初めて患者に安全な医療を実施出来る。新人看護師であっても看護のプロとして患者の前に立つには、他者から指示を元に、自らの知識・技術を補うのではなく、自らの不足している知識・技術を自覚し、それを補完して臨床場面に臨むことが求められる。そこで、看護技術統合は教員からの講義という受け身の講義形式でなく、自ら不足している知識・技術とは何か、それを各自で学習し、学生間で相互学習することで学生自身が自己とグループの知識・技術の習得に主体性と責任をもって講義に臨んでほしい。 看護技術統合は臨床に近い場面を、判断・行為の選択・実践・振り返り・成果と課題・課題解決に向けた改善策、を考える過程を経験し、その時・その場でどんな看護が必要かを導き出すために必要な方法を学んで欲しい。同じ看護場面は 2 度と起こらないが、最善の看護を導き出す方法を学ぶ事で、異なる対象・状況に応じた看護を判断・実践する力を育成したい。					
授業計画						
単元名		教育内容			方法	
1	オリエンテーション 事例提示	「臨床の場面に即した日常生活援助技術」の目的、意義、進め方のオリエンテーション ①事前に個人で調べ、理解してきたことが前提となる ②個人で調べ、理解してきたことを互いに教え合う 【学習計画立案】 事例提示・課題分析・学習内容決定・学習計画立案			講義	
2 3	患者理解の基礎的知識の確認	【解剖生理・病態・治療の理解】 ①個人で事前に調べてきた内容を共有し、グループでまとめる ②個人テスト（対象理解に必要な解剖生理・病態・治療） ③チームで完全回答をするために学習を共有、不明点を調べる ④チームテスト ⑤アピールタイム：個人学習・チーム学習を通して明らかになったことをアピール ⑥教員によるフィードバック			グループワーク 発表	
4 5	患者理解 患者へのケアの選択	【課題シート 1】 事例患者の入院時の情報収集と観察 シミュレーション 1 回目 ①カルテからの情報収集 ②情報収集を元にインタビューや観察項目の抽出 ③入院時のインタビュー・観察 ④入院時のフィジカルアセスメント ⑤観察を通しての振り返り			シミュレーション グループ学習 発表	

6 7 8 9		【課題シート2 必要なケア計画の立案】 【患者理解】 ①グループで関連図と全体像を作成し発表する 【看護上の問題・看護の方向性・看護計画の立案】 ①看護上の問題の抽出 ②看護の方向性の確認 ③看護計画の立案	
10 11 12 13 14	状況に応じた看護の選択	【課題シート3】 【状況に応じた看護の選択と実施】 ①事例（腎不全患者）に必要なケア計画の立案（看護計画の追加・修正とその理由） ②1場面（日常生活援助技術）の技術を発表 ③1場面の技術ではあるが、ケア実施中の他患者に起こりうることを予測して対応する ④日常生活援助技術の実施（グループで実施） 演習 点滴を実施している腎不全（心不全併発）患者の部分清拭と寝衣交換	シミュレーション
		患者の日常生活援助 <u>シミュレーション 2回目</u> ①選択した日常生活援助についての検討（なぜその援助を選択したのか） ②代表グループによる日常生活援助の実施 ③実施を通しての振り返り ④各グループで同場面の日常生活援助技術の検討 ⑤代表グループによる日常生活援助の実施 ⑦自己の援助の分析	
15		筆記試験および実技試験（場面に応じた日常生活援助）	試験
<備考>・グループワークでは1つの事例を中心に行うが、2つの事例とも共有を通して学ぶこと。 ・事例は身体面のみを追求するのではなく、患者を総合的にとらえるとともに生活している人としてとらえた看護を展開するという視点で検討する。看護ケアを実施する際も心理状態や社会的側面をも考慮したコミュニケーションや配慮を考えて実施する。 ・看護技術の習得とともに看護の場面での実践能力を統合して援助ができるように学んでほしい。			
	評価方法及び評価基準	（筆記試験） 臨床の場面に即した日常生活援助技術 100点（講義内の評価含む） 多重課題 100点（講義内の評価含む） （実技試験） 臨床の場面に即した日常生活援助技術 100点 多重課題 100点 最終の評価は、合計点を4で割った数値を評価点とする。 ただし、それぞれ60点以上を合格とし、60点に満たない場合、再試験を受け合格しなければ、単位履修を認めない	
	テキスト	1) 血液・造血器 デジタルナーシンググラフィカ（9巻・13巻・EX4巻） 2) 腎・泌尿器 デジタルナーシンググラフィカ（9巻・12巻・EX8巻） 3) 臨床看護学総論 デジタルナーシンググラフィカ 22巻 4) 解剖生理学 デジタルナーシンググラフィカ 1巻	
	参考文献	1) 山田 幸弘，疾患別看護過程セミナー，医学芸術社 2) 猪又 克子，臨床看護技術パーフェクトナビ，G a k k e n 3) 関口 恵子，根拠がわかる症状別看護過程，南江堂 4) 安部 紀一郎，循環機能学と循環器疾患のしくみ，日総研 5) 市立豊中病院看護部編，標準看護アセスメント，日総研 6) 山口 瑞穂子他監修，N e w疾患別看護過程の展開，学習研究社 7) 大野 竜三他編，白血病マニュアル，南江堂 8) 病気が見える Vol. 5 血液 9) 病気が見える Vol. 8 腎泌尿器	

授業科目	看護技術統合 多重課題	講師名	池田 陽子	専門領域：看護師 (病院にて看護師として勤務) 実務経験 年数 9年
	開講年次：3年次			
授業科目 目標	1. 複数患者の優先度の判断が出来る 2. タイムマネジメントで考慮すべきことを理解できる 3. 複数同業務の優先度を判断できる 4. 多重課題が同時発生したときに何をすべきか理由を合わせて述べる事が出来る 5. 医療機器を装着している患者の観察点を述べる事が出来る 6. 医療機器の取り扱い方法が分かる 7. 看護を実施する上でリスクが予測できる 8. トラブル発生時の対応で考慮すべきことを述べる事が出来る 9. 自ら出来ることと、できない事を区別し、できない事に対するマネジメントができる			
ねらい	「多重課題」では、複数患者・複数業務の優先度の判断を学ぶ。具体的には、「タイムマネジメント」「複数の同業務の優先度の判断」「同時発生多重課題」の状況を提示し、その状況を既習の知識を組み合わせて理解し、看護師として今できることを判断し実践することを学ぶ。 実際の臨床場面では「すべての情報を知りえた上で看護が始まる」という事は少なく、限られた情報を元に、その場面から、どれだけのことに「気付く」かが、その後の判断の質（どれだけ、その場に応じた判断）を左右する。臨床の看護師のように、「気付き」から考えるプロセスを体験することで、知識と実践の差を埋め、その状況の判断の要素を意識化し、「気付き」の幅を広げたい。 ゆえに、これまでの事例学習と異なり、ある看護場面を提示し、その場面のより妥当な行為（看護）とは何か、その行為を選択した理由は何かを考えるので、学生自身が選択理由を表現し、メンバーと共有することで「気付き」の幅が広がる。自己の思考を他者に伝えることは、報告・連絡・相談の基本でもある為、積極的に、表現してもらいたい。			
授業計画				
回数	教育内容	意図		方法
1	1. オリエンテーション 看護技術統合（多重課題）の目的・目標 学習の進め方 2. 場面1の提示 「午後に検査が予定されている患者。ほかにリハビリテーションと清拭を予定している」	1人の患者のタイムマネジメントを行う時に考慮すべきことは何かを明らかにし、その情報を元により妥当なタイムマネジメント（時間管理）を学ぶ (リハビリテーションが先か、清拭が先か、検査の前に行うのか、検査の後に行うのか、いつ行うのが妥当なのか など)		講義
2	1. 場面1 タイムマネジメントの検討			演習
3	1. 場面2の提示 「2名の患者のオムツ交換が同時に必要になった」	2名の患者の同じ種類の援助が同時に必要になった場合、どうするのか (優先度を判断するために考慮すべきことは何かを明らかにし、その情報を元により妥当な判断を学ぶ)		
4				
5				
6	1. 場面3の提示 シミュレーション ① 「シリンジポンプの閉塞アラームと残量アラームが同時に鳴った」	1名の患者に行われている治療（薬物療法）の内容・影響を踏まえたアラーム対応とは何か。考慮すべきことと、実際、アラームが鳴った時の対処を身につける		
7				
8				
9	1. 場面4の提示 シミュレーション ② 「Aさんのポータブルトイレの見守り中に、同室患者Bさんから「看護師さん、ちょっとお願いします」と声を掛けられた」	2名の患者に異なる看護が必要になった場合、何を優先するのか、考慮すべきことは何かを明らかにし、実際の場面の行動を振り返り、判断の妥当性を考える		
10				
11				
12				
13				
14				
15	筆記試験および客観的臨床能力試験	(客観的臨床能力試験) 様々な臨床場面の対応方法を実技試験で評価する		テスト

評価方法及び 評価基準	【臨床の場面に即した日常生活援助技術】参照
テキスト	テキスト配布
参考文献	1) 山田 幸弘, 疾患別看護過程セミナー, 医学芸術社 2) 猪又 克子, 臨床看護技術パーフェクトナビ, G a k k e n 3) 関口 恵子, 根拠がわかる症状別看護過程, 南江堂 4) 山口 瑞穂子ほか監修, N e w疾患別看護過程の展開, 学習研究社 5) 田中 美智子, 呼吸器看護のフィジカルアセスメント, メディカ出版 6) 国立循環器病センター看護部, 標準循環器疾患ケアマニュアル, 日総研出版 7) 永井 秀雄, N u r s i n g M o o k見てわかるドレーン&チューブ管理, 学習研究社 8) 鈴木 玲子, N u r s i n g M o o k最新輸液管理, 学習研究社 9) 花田 妙子, 困ったときの心疾患患者の看護, 医学書院 10) 山瀬 博彰, 救急看護学, 医学書院 11) 東口 高志, わかる・できる・注射・輸液・輸血・採血, 南江堂 12) 道又 元裕, 人工呼吸ケアなぜ何大百科, 昭林社 13) 初めての人工呼吸器, メディカ出版 14) 釘宮 豊城, 写真でわかる人工呼吸器の使い方, 医学芸術社 15) 坂東 興, 新人ナースの循環器 b a s i c, メディカ出版

専門分野

実習名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	実習年次；3年次							
		期間	単位（時間数）						
		9日間	2単位 90時間						
実習施設	※別表 1 参照								
実習目的	地域・在宅看護論実習Ⅱ目的 地域で生活しながら療養する人とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を習得する								
目標及び行動目標									
Ⅰ.科目目標									
1) 地域で生活する療養者とその家族を理解することで看護の対象と多様性がわかる									
2) 地域で療養する人と家族及び場に応じた個別性のある看護を実践できる									
3) 在宅看護の対象となる人とその家族への権利保障（人権尊重・倫理性含む）について理解して行動できる									
4) 在宅看護の対象となる人とその家族のセルフケア能力を高めるための支援方法を理解して行動できる									
5) 在宅看護を支援するうえで必要な社会資源や地域のサービスシステムの活用方法の実際を学ぶ									
6) 保健医療福祉との連携と看護職者による調整方法について理解する									
7) 在宅看護実習を通して自らの看護について振り返る									
Ⅱ行動目標									
1) 地域で生活する療養者とその家族を理解することで看護の対象と多様性がわかる									
①生活者としての視点で療養者と家族を総合的にアセスメントすることができる									
2) 地域で療養する人と家族及び場に応じた個別性のある看護を実践できる									
①訪問看護師とともに必要な援助ができる									
3) 在宅看護の対象となる人とその家族への権利保障（人権尊重・倫理性含む）について理解して行動できる									
①訪問をする看護職として倫理に基づいた行動をとることができる									
4) 在宅看護の対象となる人とその家族のセルフケア能力を高めるための支援方法を理解して行動できる									
①在宅看護の対象となる人とその家族のセルフケア能力を高めるための支援方法を理解して行動できる									
5) 在宅看護を支援するうえで必要な社会資源や地域のサービスシステムの活用方法の実際を学ぶ									
①訪問看護師テーションの機能と役割について理解できる									
6) 保健医療福祉との連携と看護職者による調整方法について理解する									
①在宅療養を支える関係機関、関係職種を知り、訪問看護師としての連携の実際がわかる									
Ⅲ.実習方法									
実習スケジュール									
	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目	6 日 目	7 日 目	8 日 目	9 日 目
パターン1	地 域 包括	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	学 内 実習
パターン2	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	訪 問 ST	地 域 包括	学 内 実習

週予定

	月	火	水	木	金
1W	訪問 ST	訪問 ST ケアプラン 1 名	訪問 ST ケアプラン 1 名	訪問 ST ケアプラン 1 名	訪問 ST ケアプラン 1 名
2W	訪問 ST ケアプラン 1 名 医療連携室 2 名	訪問 ST 発表資料作成	地域包括支援 センター	帰校日	

IV.評価方法

実習内容 70点

態度評価 30点 合計100点

V.評価表（別紙参照）

発表に関しては、ループブック評価を参考に評価を行う

別表 1

訪問看護ステーション	2 単位 90 時間	朝倉医師会訪問看護ステーション 医師会ケアプラン 朝倉医師会病院地域医療連携室
	訪問看護ステーション (60 時間)	田主丸訪問看護ステーション ひまわりケアプランサービス 田主丸中央病院地域支援課
	ケアプラン (10 時間)	甘木中央病院訪問看護ステーション 甘木中央病院ケアプラン 甘木中央病院地域医療支援室
	地域医療連携室 (10 時間)	朝倉健生病院訪問看護ステーション 朝倉健生病院ケアプラン 朝倉健生病院地域医療連携室
地域包括支援センター	(10 時間)	比良松・杷木地域包括支援センター 南陵・十文字地域包括支援センター 秋月・甘木地域包括支援センター 筑前町地域包括支援センター 東峰村地域包括支援センター うきは市地域包括支援センター
学内実習	(10 時間)	

専門分野

実習名	成人看護学実習Ⅰ	実習施設	朝倉医師会病院	実習年次：3年次前期	
				期間	単位（時間数）
				9日間	2単位 （90時間）
実習目的	看護の対象者の状態、状況、場面の看護としての臨床判断を行い、対象に適した看護の実践を学ぶ。				
目標及び行動目標					
1. 患者の現在の状況を理解し、看護の必要性の判断を行い、適切な看護の実践を行う （1）対象の持つ健康障害の程度がわかり、病期を説明できる （2）対象の持つ健康障害について、病態生理、障害の部位と程度、治療の経過をとらえ、看護の必要性を理解できる （3）患者の治療に伴う合併症や二次的障害を踏まえ、予防的看護介入が実践できる （4）患者の病状回復を促進する看護を理解することができる （5）健康障害が患者の家族や社会での役割に及ぼす影響を考えることができる （6）患者のエンパワメントを引き出す看護介入を考えることができる 実習方法： ①原則として実習期間中1名の患者を受け持ち、看護行為に至る思考過程を使って看護実践を行う ②急性期、慢性期、回復期、周手術期のいずれかの患者で、合併症を多く持っていない患者が望ましい ③臨死期の患者は避けた方が望ましい ④成人に特徴的な疾患の受け持ちが望ましい ⑤日々の看護における臨床判断の場面をカンファレンスにあげ討議する ⑥学内実習では、実習の達成度の評価と次の目標設定を行う 指導上の留意点 ①学生の経験録や希望を参考に患者決定する ②実習前・実習中には、学習ノートをチェックし活用を指導する ③看護処置は実習指導者、看護師と共に行う ④患者への教育・指導は実習指導者、看護師と共に行う ⑤告知や受容の程度は関係者間で必ず情報を共有する ⑥継続の必要な看護は必ず申し送り、引き継ぐ 2. 保健医療福祉チームの機能を理解し、医療チームの人々との連携・協働を学ぶ。 （1）退院支援に向けて関わる関係職種、関係機関の役割について理解できる （2）患者の退院後の生活を見越して、入院中に必要な看護支援がわかる （3）退院支援の方針に沿って学生の看護計画、実施をすることの必要性がわかる 実習方法： ①関係職種と退院に向けて課題を話すことができる ②患者が理解しうる指導方法を工夫できる ③退院に向けての他職種カンファレンスに参加できる ④病院の退院支援システムを理解できる 指導上の留意点 ①患者の病状の経過に合わせて無理のない指導、教育を行えているか、学生が気付くことができるように関わる ②患者の望む生活の実現の必要性に学生が気づけるように関わる					

<備考>

患者の疾病を理解するだけでなく、疾病を抱える生活者としての対象理解ができるように、学んで欲しいです。疾病を抱えて生きていくことの大変さや苦悩を感じたり、患者の持てる力を引き出せる看護として何ができるのかと、自身の感情が揺さぶられながら、患者の看護を考えていけるよう実習指導を行っていきます。

臨地実習（病院）80 時間

学内実習（学校）10 時間

計 2 単位 90 時間

臨地実習での経験を既習の知識や新しく学んだ知識を使ってどんなことが起きていたのか、何が言えるかを学内でしっかり振り返りをさせていただきます

評価方法及び
評価基準

実習評価表 100点

専門分野

実習名	成人看護学実習Ⅱ	実習施設	朝倉医師会病院	実習年次：3年次前期	
				期間	単位（時間数）
				9日間	2単位 （90時間）
実習目的	看護の対象者の状態、状況、場面の看護としての臨床判断を行い、対象に適した看護の実践を学ぶ。				
目標及び行動目標					
1. 患者の現在の状況を理解し、看護の必要性の判断を行い、適切な看護の実践を行う （1）対象の持つ健康障害の程度がわかり、病期を説明できる （2）対象の持つ健康障害について、病態生理、障害の部位と程度、治療の経過をとらえ、看護の必要性を理解できる （3）患者の治療に伴う合併症や二次的障害を踏まえ、予防的看護介入が実践できる （4）患者の病状回復を促進する看護を理解することができる （5）健康障害が患者の家族や社会での役割に及ぼす影響を考えることができる （6）患者のエンパワメントを引き出す看護介入を考えることができる 実習方法： ①原則として実習期間中1名の患者を受け持ち、看護行為に至る思考過程を使って看護実践を行う ②急性期、慢性期、回復期、周手術期のいずれかの患者で、合併症を多く持っていない患者が望ましい ③臨死期の患者は避けた方が望ましい ④成人に特徴的な疾患の受け持ちが望ましい ⑤日々の看護における臨床判断の場面をカンファレンスにあげ討議する ⑥学内実習では、実習の達成度の評価と次の目標設定を行う 指導上の留意点 ①学生の経験録や希望を参考に患者決定する ②実習前・実習中には、学習ノートをチェックし活用を指導する ③看護処置は実習指導者、看護師と共に行う ④患者への教育・指導は実習指導者、看護師と共に行う ⑤告知や受容の程度は関係者間で必ず情報を共有する ⑥継続の必要な看護は必ず申し送り、引き継ぐ 2. 保健医療福祉チームの機能を理解し、医療チームの人々との連携・協働を学ぶ。 （1）退院支援に向けて関わる関係職種、関係機関の役割について理解できる （2）患者の退院後の生活を見越して、入院中に必要な看護支援がわかる （3）退院支援の方針に沿って学生の看護計画、実施をすることの必要性がわかる 実習方法： ①関係職種と退院に向けて課題を話すことができる ②患者が理解しうる指導方法を工夫できる ③退院に向けての他職種カンファレンスに参加できる ④病院の退院支援システムを理解できる 指導上の留意点 ①患者の病状の経過に合わせて無理のない指導、教育を行えているか、学生が気付くことができるように関わる ②患者の望む生活の実現の必要性に学生が気づけるように関わる					

3. 臨床判断の思考過程を使って、患者の状態（場面）に対する判断と必要な看護援助を行う。

- (1) 気づくための前提及びその必要性がわかる
- (2) 気づいたことを分析的・直観的・説話的推論で解釈することができる
- (3) 患者の場面の判断を行い、看護の必要性を明らかにする
- (4) 状況（場面）の判断ができる
- (5) 一般的な知識と患者理解を合わせて場面で何が起きているのか判断し、実施することの優先順位を
考えることができる
- (6) 看護実践においては、看護理論と結び付け対象の個別性、目標の明確化、患者に応じたケアを
「反応する」の考え方のもと実施できる
- (7) 実施したことを「省察する」ことで、次の看護へ繋げる考え方がわかる

実習方法：

- ①看護行為に至る思考過程を使いながら看護を実施していく
- ②受け持ち患者の様々な場面を通して、患者の状態をどのように判断したかを確認する
- ③前提として、患者を理解しておくことが必要であるため、実習の後半から場面の判断は実習に取り入れ
ていく

指導上の留意点：

- ①学生は、思考過程の学びはしているが、実際臨床で行うのは初めてである。そのため看護師が行った
思考のプロセスに沿ってゆっくり説明をして、ゆっくり考える時間をとる
- ②問いに対する学生の反応の具合により、他の問いを組み合わせ学生の理解の程度で思考を引き出せる
工夫を行う

<備考>

患者の疾病を理解するだけでなく、疾病を抱える生活者としての対象理解ができるように、学んで欲しいです。
疾病を抱えて生きていくことの大変さや苦悩を感じたり、患者の持てる力を引き出せる看護として何ができる
のかと、自身の感情が揺さぶられながら、患者の看護を考えていけるよう実習指導を行っていきます。

臨地実習（病院）80 時間

学内実習（学校）10 時間

計 2 単位 90 時間

臨地実習での経験を既習の知識や新しく学んだ知識を使ってどんなことが起きていたのか、何が言えるかを
学内でしっかり振り返りをさせていただきます

評価方法及び
評価基準

実習評価表 100点

実習名	老年看護学 実習Ⅰ	実習施設	①外来（3日間） ②いしずえ荘（3日間） ③アスパシア（3日間）	実習年次： 3年次前期	
				期間	単位(時間数)
				9日間	2単位 (90時間)
実習目的	1. 地域で生活する老年期にある対象の特徴を理解し、老化および健康障害による問題を把握し、対象とその家族に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する				
目標及び行動目標					
1. 介護老人福祉施設：デイサービス					
(1) 高齢者の身体面、心理面、社会面の特徴が、個人によって異なることを理解し、老年期にある人の健康上のニーズを知る					
行動目標					
①主に関わった利用者の加齢変化について捉える事ができる					
②加齢変化が日常生活にどのような障害をきたしているのかわかる					
③高齢者の地域での暮らしから、社会的特徴を説明できる					
(2) デイサービスの機能を知り、看護師の役割と他職種との連携について理解できる					
行動目標					
①デイサービスの特徴と看護の役割を理解する					
②自宅で生活する高齢者の日常生活の自立支援にかかわる援助を職員と共に実施できる					
(3) 高齢者の健康についての思いを知り、高齢者の健康とはどのようなことなのかについて自分の考えをまとめることができる					
行動目標					
①高齢者の生きてきた歴史がわかる					
②自分の今の健康、生活状況についてどのような思いがあるのか捉えることができる					
③自立支援が必要な理由を考察できる					
実習方法					
①できるだけ多くの利用者とかかわり、高齢者の理解力に合わせたコミュニケーションを図る（高齢者の疾患や健康の捉え方、生きてきた時代背景を知る）					
②施設での利用者が安全で活動しやすい環境について体験する					
④利用者の特徴や介護度を知り、サービス内容・活動内容の援助の際には指導者と一緒に行動する					
⑥家族への支援の実際について指導者より説明を受ける					
指導上の留意点					
①援助を行う際は事故がないよう高齢者の行動をみながら行う。問題が生じた場合は、その場のスタッフに報告する					
②インタビューにふさわしい場の設定を心かける					
2. 外来実習					
(1) 老年看護における外来看護の役割と実際に学ぶ					
行動目標					
①継続看護の重要な役割を担う外来の役割がわかる					
②地域住人のニーズに合わせた外来機能について考察できる					
③専門外来や相談窓口の役割がわかる					
④短時間に患者を把握し、指導を行う外来の特性がわかる					

⑤チーム医療の連携・協同について理解できる

(2) 老年期の疾病の特徴と生活に及ぼす影響を理解できる

行動目標

- ①高齢者の受診行動の特徴がわかる
- ②高齢者の受診過程における特徴を説明できる
- ③在宅で加療することに対しての患者や家族の思いや悩みを知る
- ④障害を持ちながら在宅で生活する高齢者および家族への指導の必要性がわかる
- ⑤高齢者が在宅で加療しながら生活を行うことに対しての課題について考察する
- ⑥高齢者が在宅で生活しつづけるために支援を行う。関係職種の役割・連携について理解できる
- ⑦受け持ち患者に実施する援助を安全に留意して行うことができる

実習方法

- ①内科外来、整形外科を受診する高齢者に関わる
- ②受け持ち患者の外来受付から帰院までの一連の流れを一緒に行動する
- ③インタビューや観察を行い、受診行動について知る
- ④栄養指導、薬剤師からの指導を見学する
- ⑤看護技術の介助は指導者と一緒に行う

指導上の留意点

- ①学生が長い時間そばにすることで緊張から疲れてしまう高齢者もいるので表情の変化に注意する

3. 老人保健施設：アスピア実習

慢性的な健康障害を有しながら、在宅復帰を目指して施設で生活している高齢者の生活とケアの実際を知り、QOLの向上に向けての支援について理解できる

(1) 入所している高齢者の身体的・心理的・社会的状況を知り、健康レベルがわかる

行動目標

- ①入所者の療養環境を知る
- ②入所している理由と生活における希望がわかる
- ③受け持ち入所者の施設内での生活についての思いを知ることができる
- ④受け持ち入所者の健康状態と日常生活行動の自立度をアセスメントできる
- ⑤高齢者の健康レベル・自立度に応じた日常生活行動の援助の実施ができる

(2) 認知症をもつ高齢者に対して、尊重した態度で接し、コミュニケーションを図ることができる。

行動目標

- ①高齢者の適応能力低下を踏まえ、安全、安楽に配慮し事故防止ができる
- ②受け持ち入所者の転倒の要因を捉え予防のための援助ができる
- ③認知症高齢者とのコミュニケーションの基本を基に個々に応じた工夫ができる

(3) 介護老人保健施設の機能と高齢者の生活を支える職種の役割について理解できる

行動目標

- ①介護老人保健施設の特徴と施設における看護の役割について説明できる
- ②高齢者の生活を支える職種の役割について理解できる

実習方法

- ①受け持ち入所者の施設内での生活の様子を把握し、施設での生活をどのように感じているのか知る
- ②入所にたいする家族の期待・希望についてカルテや家族から情報を得る
- ③受け持ち入所者のコミュニケーション能力を把握する
 - ・難聴、視力障害、言語障害、認知症など
- ④健康状態の観察を実施する

食事の援助、入浴介助、排泄介助は指導者の見守りの中で実施する

⑤認知症により生じた対象の日常生活行動の変化を把握する

⑥高齢者におこりやすい転倒・転落についてのアセスメントする

＜備考＞ 実習を通して在宅や施設で生活する高齢者の特徴を理解し、高齢者を尊重した関わりについて学べるように実習指導を行っていきます

評価方法 及び 評価基準	実習評価表 100 点
--------------------	-------------

実習名	老年看護学 実習Ⅱ	実習施設	朝倉健生病院	実習年次： 3 年次前期	
				期間	単位 (時間数)
				9 日間	2 単位 (90 時間)
実習目的	1. 地域で生活する老年期にある対象の特徴を理解し、老化および健康障害による問題を把握し、対象とその家族に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する				
目標及び行動目標					
入院し治療をうける高齢者の特徴理解と療養状況に応じた看護の実際から看護の役割を理解することができる					
実習目標					
1) 治療をうける高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える必要性がわかる。					
行動目標					
①ライフヒストリーより高齢者の生きてきた過程を捉える					
②受け持ち患者の病態を捉えることができる					
③受け持ち患者の症状・障害によって生じる生活習慣、生活環境の変化を述べることができる。					
④受け持ち患者の疾病・障害によって生じる役割、人間関係の変化を述べることができる。					
⑤受け持ち患者の健康障害に対処する能力（強み：もてる力）を述べることができる。					
⑥高齢者の療養過程で生じる変化を予測でき、生活環境を整える援助の必要性を述べることができる					
2) 高齢者の個別性を考えた看護を展開できる。					
行動目標					
①患者の健康障害の段階（病期）に応じた看護の方向性を考えることができる。					
②看護上の問題を問題解決思考とニーズ思考から捉えることができる。					
③患者の思いを考慮した目標設定ができる					
④看護上の問題を解決するために、活用可能な患者の対処能力（強み：もてる力）を記述できる。					
⑤具体策の立案の際は、高齢者の安全・安楽を十分検討し計画に織り込むことができる。					
⑥具体策の立案の際は、患者の対処能力（強み：もてる力）を生かしているのか十分検討し計画に織り込むことができる。					
3) 高齢者に必要な診断、治療、看護に関わる看護技術を倫理的配慮のもと、安全に実施することが出来る。					
行動目標					
①患者、家族の状況に適したコミュニケーションをはかることができる。					
②高齢者自身を生活の主体者と認め、高齢者が自尊心を損なわないかわり方ができる。					
③援助行為は、事前に目的・方法・注意事項を学習した上で実施できる。					
4) 高齢者の生活を維持していく上で携わる職種の協働・連携の重要性を保健医療福祉の観点から理解できる。					
行動目標					
①受け持ち患者の現在の状態と退院後の生活における問題点を考えることができる。					

- ②退院後の生活の場を考慮した退院計画を考えることができる
- ③患者が自分の家族をどのように捉えているのか知ることができる。
- ④退院後活用できる社会資源を調べることができる
- ⑤高齢者を介護する家族の支援について必要性を理解できる。

実習方法

- ①受けもち患者を通して治療を受ける高齢者の生きてきた背景や生活習慣、価値観を知る
- ②高齢者の機能低下と関連して病態をアセスメントする
- ③看護過程の思考プロセスでは目標志向型で対象を捉える
- ④患者のニーズ・自立を考慮した目標設定にする
- ⑤看護技術の実施においては指導者に必ず報告を行い安全に実施する
- ⑥受け持ち患者の利用している社会資源や今後必要な社会資源について知る
- ⑦病棟カンファレンスに参加しチーム医療について知る

<備考> 実習を通して病院で療養生活する高齢者の特徴を理解し、高齢者を尊重した関わりについて学べるように実習指導を行っていきます

臨地実習（病院）80 時間

学内実習（学校）10 時間

計 2 単位 90 時間

臨地実習での経験を既習の知識や新しく学んだ知識を使ってどんなことが起きていたのか、何が言えるかを学内でしっかり振り返りをしていただきます

評価方法 及び 評価基準	実習評価表 100 点
--------------------	-------------

授業科目	精神看護学実習	講師名	皆元 謙治	
	開講年次：3年次後期	単位	時間数	
		2単位	90時間	
授業科目目標	精神疾患患者の看護の実践を学ぶとともに患者との関係性構築のために必要な自己理解・他者理解・関係性を理解する。地域で生活するための支援の実際を知る。 1) 対象とのかかわりを通して自己理解と対象の理解の必要性について理解することができる。 2) 対象を精神の健康障害をもつ一人の人間として理解を深めることができる。 3) 対象の特徴をふまえたセルフケアの看護が展開できる。 4) 精神医療福祉チームにおける看護師の役割を理解することができる。			
ねらい	1、患者との関りを通して自己理解を深め、コミュニケーション技術を学ぶ。 2、精神に健康障害のある一人の人間を理解する。 3、精神障害が日常生活に及ぼす影響と対象にあわせた援助のアセスメントを学ぶ。 4、精神症状のアセスメントを学ぶ。 5、地域で生活するために行われている支援の実際を知る。			
授業計画				
単元名	教育内容		時間	方法
1章：対象理解・精神保健	1 精神保健とは ① 自己理解と他者理解・その間柄を知る ② こころの健康とストレス ③ こころの健康と心身の変化 ④ 社会とメンタルヘルス ⑤ こころの健康とライフサイクル、セクシュアリティ、 生活の中のクライシス ⑥ 心の健康と社会とのかかわり		90	実習
2章：精神を病む人の看護	2 生活の場と臨床におけるクライシス			
	3 精神保健医療福祉の変遷と法や施策			
	4 精神看護の倫理と人権擁護			
	5 安全な治療環境の促進			
	1 精神看護における看護過程 ① 精神看護における看護過程 ② 全人的視点 ③ 経過・重症度別看護			
3章：精神を病む人の看護技術	2 精神を病む人への看護援助の基本 ① 精神症状と精神疾患 ② 精神科での治療 ③ 医学的診査と心理検査 ④ 生きる力と強さに着目した援助			
	3 精神看護の倫理と人権擁護			

	1 精神看護における自己と対象の理解 ③ アセスメントの視点 ④ クリティカルシンキングスキル ⑤ 治療の場の人間関係 ⑥ 看護場面の再構成 2 精神看護におけるケアの方法 (看護における臨床判断) ⑥ 治療的かかわり方の考え方 ⑦ メタ認知 ⑧ 日常生活行動の援助 ⑨ 服薬治療にかかわる援助 ⑩ 入院環境と治療的アプローチ ⑪ 精神保健とリハビリテーション ⑫ チーム医療 ⑬ カンファレンスの意義 実習方法 1) 8日間病院実習・1日間学内実習を行う 2) 一人の患者受け持ちを行いながら、対象理解、看護を学ぶ 3) 日常の場面を看護的に判断し積み重ねていく 4) カンファレンスで場面の判断を話し合う		
評価方法及び 評価基準	GPA 制度 成績評価は 100 点満点とし、(秀、優、良、可、不可、未受験、認定済み)を成績値 (グレード・ポイント ; GP) に換算して GPA (成績平均値) を出す。 不可と未受験は不合格。GP ; 4 ～ 1 は合格、0 は不合格。		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践		
参考文献			
備考			
臨地実習 (病院) 80 時間 学内実習 (学校) 10 時間 計 2 単位 90 時間 臨地実習での経験を既習の知識や新しく学んだ知識を使ってどんなことが起きていたのか、何が言えるかを学内でしっかり振り返りをさせていただきます 学内実習振り返り内容			
1) 精神に障害を持つ患者の健康障害の段階や治療、それに伴う患者の反応を捉える過程を明らかにする 2) 症状、治療等での生活への影響から、看護の方向性を明らかにして立案した看護計画の		1) 精神に障害を持つ患者の反応をとらえる 患者の状態 (症状や検査、治療) や生活を精神の健康障害及び薬物の影響から捉える ・ 患者の状態を精神の障害の段階や発達段階、成育歴から捉える ・ 患者の精神の健康障害の段階に応じて、症状・検査・治療を病態生理から捉えることでそれが生活にどのような影響を及ぼしているかを捉える 2) 看護の方向性を明らかにする ・ 患者の精神の健康障害の段階や発達段階に応じた身体的、心理的、社会的な変化や治療	

妥当性を考える	に伴う看護の方向性が考える ・実施した看護をアセスメントから実施までの一連の思考過程にそってクリティークできる ・看護上の問題および看護計画において、エビデンスに基づいた判断を捉える ・看護実践は、看護の方向性に基づいた根拠をとらえる ・精神障害を持つ患者が在宅に移行する場合、使える社会資源について学ぶ
---------	--

実習名	看護の統合と 実践実習	実習施設	朝倉医師会病院 朝倉健生病院 甘木中央病院	実習年次： 3年次	
				期間	単位(時間数)
				9日間	2単位（90時間）
実習の ねらい	看護における臨床判断の思考を使って、患者の状態と看護の必要性の判断、看護場面で起きていること の判断と看護として実施することの判断を行う。				
目標及び行動目標					
1. 看護の統合と実践実習 目的 臨地において、看護チームの一員として看護の実践が行えるように、看護における臨床判断のプロセス を使って看護を実践する 2. 看護の統合と実践実習 目標 1. 複数患者を受け持つことで、看護における臨床判断のプロセスを使って看護の実践をする 2. 夜間における患者の状況から看護の継続性を理解するとともに、夜間における臨床判断の実際を学ぶ 3. チームナースングの実際を知ること、看護を組織の視点で理解する 4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と協働の重要性を理解する 5. 臨地実習の目的・目標・実習方法を自ら考え、選択して実施することにより、主体的な学びを体験す る 6. 看護師として自らの課題と展望を考えることができる 3. 行動目標 複数患者受持実習 1) 複数患者を受け持ちそれぞれの状態を把握する 2) 勤務交代前後の状態、処置の確認を行うことができる 3) 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる 4) 複数患者の一人に関わっているとき他受け持ち患者の状態を確認できる体制をつくることができる 技術経験実習 1)受け持ち患者の（複数）安全な日常生活援助を行う 2)受け持ち患者に行われている医療処置を担当看護師と共に実施する 3) 受け持ち患者に行われる検査前中後の看護を看護師と共に実施する 4) 受け持ち患者以外の患者に対し、治療、医療処置、検査等は、担当看護師と共に実施する チームナースング実習 リーダー業務実習 1) 看護活動をチームの視点で理解する 師長実習 1) 病棟師長と語らいの場を持つ ①師長さんに看護管理を行う上で心がけていることや新人看護師への思いについて話をさせていただく ②学生は臨床の場に出る不安などを表出する 夜間実習 1) 夜間実習を行うことで、患者の夜間の状態を知る 2) 夜間実習を行うことで、看護の継続性がわかる					

チームカンファレンスへの参加

- 1) 患者に対するチームカンファレンスにチームの一員として参加する

主体的学習能力

発展的課題

- 1) 統合実習の自らの課題を明確にし、課題達成のための行動がとれる
- 2) これまでの学習を振り返り将来の看護師像を描き、自己の看護観を言語化する
- 3) 実習での学びを通して考えた自らの看護観を具体的な事例や理論を用いて表現する

4. 受け持ち部屋の選定

選定は下記の点を考慮し教員と実習指導者が相談をして行う。

1) 選定の目安

- ①患者、家族が受け持つことに同意をしている患者（部屋）
- ②受け持ち部屋に医療処置（点滴・酸素投与など）が行われている患者が含まれていると望ましい
- ③学生の希望をできるだけ考慮する

2) 患者の受け持ち方

① 1 部屋の患者を受け持つ

（1 部屋が長期間 1 名の入院患者であったら、実習の目的を達成できないため教員・実習指導者と相談をする）

② 1～3 日は、個々の患者を理解し、病棟の看護計画に沿って看護実践を行う

③ 3 日以降から実際に受け持ち部屋の患者の看護を看護師とともに展開する

5. 実習方法

1) 実習の方法

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 複数患者受け持ち | 6 日 |
| (2) チームリーダー実習 | 1 日 |
| (3) 夜間実習 | 1 日 |

2) 実習スケジュール

		1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
1 週 目	A (2 人)	実習オリエンテーション	部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護	夜間実習		部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護
	B (2 人)	シャドウイング		部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護	夜間実習	
		6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	
2 週 目	A (2 人)	部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護	チームリーダー実習	部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護	学内実習	
	B (2 人)	チームリーダー実習	部屋持ち看護師と共に 受持ち部屋患者の看護		経験の振り返り	

3) 具体的な動き方

複数患者受持実習	・実習初日に、実習を行う上で必要なオリエンテーションを受ける ・各病棟の特徴については、9月に配布した病棟の概要を持参する ・物品の位置や病棟の決まりごとなどを確認する ・カンファレンス等は、通常と同じ様に16:00～16:30まで実施する。その後、16:30～17:00まで翌日の確認を行う (病棟により、16:30からの申し送りに参加する。そのときはカンファレンスの時間を事前に相談・調整・報告する)
夜間実習	・事前に夜間実習時の夜勤帯看護師を確認し、挨拶をしておく ・特別な夜間実習だけのオリエンテーションはないため、必要な情報は事前に指導者に確認しておく ・当日は、16:30にすぐ申し送りが始まるため、その前に夜勤看護師に挨拶をしておく(実習時間:13:30～22:00) ・夜勤看護師について、シャドウイングを行う (質問がある場合は、状況を確認して自ら質問をする) ・原則、シャドウイングであるが、看護師と共に一部実施することも可能(単独で看護行為をしてはならない) ＊夜間の緊急時は、教員の携帯電話に電話をする
リーダー実習	リーダー実習だけのオリエンテーションはない、必要な情報は事前に指導者に確認しておく ・病棟のAチーム、Bチームのチームリーダーについて、シャドウイングを行う(質問がある場合は、状況を確認して自ら質問をする) ・カンファレンスはせずに、17:00までリーダーについて実習を行う
師長実習	師長実習は実習2週目に1時間程度の座談会を学生中心で企画する ・病棟師長と座談会の日程・時間の確認をする。原則、実習2週目に調整する。 ・学生は事前に病院組織・看護組織・看護管理についての学習やこれまでの実習をもとに質問事項を整理しておく ・病棟師長に以下の視点で話を聞く ①病棟管理で大切にしていること ②医療安全として心掛けていること ③新人看護師に期待すること ④新人看護師としてこれだけはやってほしいこと ・学生は座談会の最後に、新人看護師として期待されていること、やるべきことを述べる
技術経験 技術習得チェック	1) 診療の補助技術(検査・処置) (1) 受け持ち及び受け持ち患者以外の患者に対し、治療、医療処置、検査等は、担当看護師と共に実施する ①診療の補助技術については、これまでの実習で経験できていない項目を抽出しておく ・これまで経験していない治療、医療処置、検査等については、受け持ち患者以外の患者に対し、担当看護師と共に実施する

	②診療の補助技術について、それがなぜ行われているかを理解する ③診療の補助技術の根拠を言うことができる ④診療の補助技術を行う際、患者に納得が得られるような説明を行う 2、技術チェックにあたっての留意点 1) 技術チェックについては、『医療安全』『倫理的配慮』『根拠性』『正確性』を評価するものとする 2) 技術チェックは、「経口与薬」「点滴静脈注射」「輸液ポンプ取り扱い」「吸引」「酸素吸入」の5項目を挙げる 3) 実習期間に5項目中、1～2項目のチェックを受けチェックに合格する *最低1～2項目チェックを受けるということであり、それ以上にチェックを受けてもよい 4) 5項目のチェック項目は、準備は看護師とともに実施するが、患者に直接身体侵襲を及ぼす行為は行わない *患者への身体侵襲については、看護師が行うことについて根拠を「述べる」こと、及び患者へ直接身体侵襲を及ぼさないことについては「確認する」行為を評価項目とする 5) 実習最終日までに技術チェックを受ける 6) 技術チェック表については、提出用ファイル内にファイルして退出する 技術チェック表は、④実習のまとめの次に綴じる
--	---

IV. 評価方法

実習内容	70点	
態度評価	30点	合計100点

臨地実習（病院）80 時間

学内実習（学校）10 時間

計 2 単位 90 時間

臨地実習での経験を既習の知識や新しく学んだ知識を使ってどんなことが起きていたのか、何が言えるかを学内でしっかり振り返りをさせていただきます

学内実習内容

1) 看護場面における看護師の判断について、判断の要素を明らかにする (場面理解・アセスメント・看護介入いづれも看護師の判断のもとで行われているため、その判断がどのような判断基準で行われているかを明らかにする) ①複数患者の時間管理について、患者個々の全体像や状況から根拠をもとに優先順位を決定できる	①短期間で患者の全体像を把握できる ②受け持ち部屋の患者の1日の計画立案を根拠を基に明確にできる ・患者の全体像を把握し、その上で1日の時間管理を優先順位をもとに計画した根拠を明確にする ③事前に計画した1日の計画を基に、患者の反応の中で計画変更したこととその根拠を明らかにできる
--	---

V. 評価表（別紙参照）

VI. 参考文献

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メディカ出版）

看護概論（メディカ出版）

プラクティス（学研）

考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（ヌーベルヒロカワ）

フィジカルアセスメントブック（医学書院）